

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
36	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of colorectal cancer: the Findrink study. アルコール消費と大腸がん危険度との関連：フィンドリンク疫学研究	
執筆者	
Toriola AT, Kurl S, Laukanen JA, Mazengo C, Kauhanen J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Epidemiol. 2008;23(6):395-401. Epub 2008 Apr 12.	
キーワード	
アルコール摂取量 大腸がん 前向きコホート研究	
要 旨	
<p><b>背景・目的：</b> 従来の報告では複数の異なる結果が報告されているアルコール消費と大腸がんとの関連について検討した。</p> <p><b>方法：</b> フィンドリンク疫学研究の副次的解析としてクオピオ虚血性心疾患危険因子研究のデータを解析した。この研究は東フィンランドで初回調査時にはがんの既往がない男性 2682 名のコホートである。対象者は週当たりのアルコール摂取量によって 5 群に分類された。アルコール摂取量と大腸がんとの関連は Cox 比例ハザードモデルによって検討した。</p> <p><b>結果：</b> 平均 16.7 年間の追跡期間に 59 例の大腸がんがあった。アルコール摂取量が最も多い群は中央値 198.8g のアルコールを消費していた。最も飲酒量が少ない群を対照群とし、年齢と初回調査実施年を調整した場合、この多量飲酒群の大腸がんの危険度は 4.4 倍であった。野菜摂取・繊維質摂取・喫煙・家族歴・社会経済状況・余暇運動量などの交絡因子を調整しても、この多量飲酒群の大腸がんの危険度は 3.5 倍であった。初回調査から 2 年以内に大腸がん罹患した症例を除外してもこれらの危険度は変わらなかった。</p> <p><b>結論：</b> 従来、アルコール摂取量と大腸がんとの危険度については複数の異なる結論が示されていたが、この研究によってアルコール摂取量と大腸がん危険度との関連を補強するエビデンスが示された。</p>	